

向日市・予算議会が始まった 市民の願いを実現する予算に変えよう！



2 / 24～向日市議会が開会しました。予定は3月21日まで。この議会は4月からの1年間、向日市が市民のためにどんな事業をするかの予算を決める重要な役割があります。議会で審議が行われますが、私たちがこれまで求めてきたことが実現される内容かどうかを、**2面に少し載せました。**

みなさんのご意見をお寄せください（予算案等は、市役所1階・市民課横の情報公開コーナーに置いてあります）。

予算案以外に、以下の市民生活に関係する条例（自治体の法律）の改正が3件提案されています。

- ①国民健康保険条例の改正（保険料上限額を4万円アップ）
- ②介護保険条例の改正（保険料を18%～35%アップ）
- ③保育所設置条例の改正（公立第3保育所を来年3月末で閉園にする）

※簡単な説明は「杉谷伸夫の個人ニュース」56号に掲載されています。会のホームページからも見ることができます（<http://sugi.pupu.jp/>）

市民参加のまちづくりの会などで 皆さんから寄せられた声

☆市民の足の確保、市内巡回バスについて

- 向日市の市内公共交通検討委員会を傍聴した。検討委員会では、市民アンケートのまとめが報告されたが、あと3月に1回開くだけ。これで何か重要なことを決定できるとは思えない。
- 市内公共交通検討委員会の資料では、物集女街道をバスが走っていて公共交通空白地域でないようになっているが、一文橋～市役所までは週に1本だけ、物集女の方は1日1本だけ。これでは使えない。これでは公共の足があると言えない。公共交通空白地域として対策をすべきだ。
- 市役所へ行くバスがなくなって、大変困ってい

る。早く公共の足を確保してほしい。

☆向日市の魅力＝保育所・学童保育の充実

- 保育所や学童保育が充実しているので、20年前結婚して住むなら向日市にとっても思っていた。
- 学童保育の一層の充実を希望する。6年生までいけるようにしてほしい。
- 向日市は狭くて道路も悪いが、小さいからこそ良い点もある。向日市の特色を打ち出せるまちづくりをしてほしい。

☆その他

- マンションの住人に高齢者が多くなっているの、せめて階段に手すりがあればと思うが、公的な支援制度はないか。階段の上り下りが危険。ゴミ出しもできない。要介護認定を受けていても階段など共用部の改修には補助が出ない。
- 米飯給食で、お茶を出してほしい。ご飯の給食でもお茶がない。

連絡先

TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-932-1325
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



来年度予算案

私たちの声は 反映されているか？



提案されている予算案の中から、**1** 私たちが求めてきた施策が実現に向かうもの、**2** 私たちが求めてきたにもかかわらず取り上げられていないもの・廃止提案されているもの、の主なものをあげます。

向日町駅のエレベータや学校のエアコン設置など、遅まきながらようやく実現に一步踏み出したものがある一方、巡回バスをはじめ一向に進展しない課題が山積です。

● 待望のものが実現へむかうもの

- JR向日町駅のバリアフリー事業がようやくスタート！ 2013年度完成予定
 - ・ 跨線橋式 (11人用エレベータ + 2階通路)
 - ・ 多機能トイレ ・ 2段ですり
 - ・ 音響案内設備など※橋上駅にした場合の市民負担＝数十億円が数千万円で済みそうです。
- すべての中学校にエアコンを整備 (小学校は来年度以降)。
- 子どもの医療費への助成拡大
 - ① 小学校卒業まで、月3,000円を超える通院医療費を助成 (京都府の制度改正)
 - ② 6歳まで、月200円を超える通院医療費を助成 (従来は3歳まで・向日市独自の制度改正)
- 新保育所の建設補助
市民体育館向かいに、定員180名の民間保育所が建設され、来年4月開園予定です。一方、公立第3保育所の閉園が提案されています。
- 私道整備に対する補助率アップ
共同営でおこなう私道の舗装、側溝などの排水設備、カーブミラーなどの交通安全施設の工事に対して必要額の85%を補助 (従来は70%)
- 小中学校の整備工事、耐震工事
来年度は以下で実施予定

- ・ 向陽小学校北校舎新築
- ・ 第6向陽小学校体育館耐震補強工事
- ・ 西ノ岡武道場新築、体育館耐震補強工事
- ・ 勝山中学校西校舎耐震補強工事

● コンビニで納税ができるようにする

4月1日より、市内のすべてのコンビニで、税金・国民健康保険料・介護保険料の納付が可能になります。

● 向日市の電力を関電以外の原子力に依存しない電気事業者から入札で購入予定

✕ 求めてきたにもかかわらず、取り上げられてないもの、廃止提案のもの

- 公立第3保育所を来年3月末で閉園する条例が提案されています。
- 「市内巡回バス」については、またもや何も提案されていません！
- 上植野町方面から市役所方面への阪急バス路線が昨年突然廃止されましたが、強い要望の出ている代替交通手段については何も無し
- 生活道路の整備は市内多数の箇所では計画されているが、小規模なものばかり。スピードを上げて計画的に進めてほしい。
- 放射能から子どもをまもる対策はゼロ (長岡京市は給食の放射能測定を開始します！)
- 万一の原子力発電所の事故に対する防災対策は全く無し…まるで福島原発事故なんて無かったかのようです
- 寺戸公民館に間借りした形だけの市民協働センターでなく、まともな市民活動センターを求めてきましたが、検討もされていません。
- 男女共同参画社会の実現にむけた取り組みの拠点となる女性センターも検討すらされていません。
- 議会を市民に伝える「議会のインターネット公開」はまた見送り。3年前の市民の請願採択が放置されたままです。これは議会の責任。

杉谷伸夫の主張

向日市への提案

～議会的一般質問より

て十分内容を検討し、子どもたちにどう教えるべきかの確信が得られるまでは、子どもたちに配布しないことが適切ではないかと考えます。

3. 共同住宅のバリアフリー改修に対する公的助成制度を！

マンション等の共同住宅でも居住者の高齢化が進み、階段を使って下に降りてゴミ出しに行くのも困難な人が増えています。手すりをつけることだけでも助かるのですが、共同住宅の共用部分の改修は個人で行えず、また介護保険が適用されません。この状況に対して、共同住宅の共用部分のバリアフリー改修に対する公的助成の制度が必要であり、効果的だと考えます。

兵庫県では相当前から実施され、県下の各自治体で利用されています。京都市でも昨年度より実施されており、制度の必要性が社会的に認識されてきていると考えます。本市においても、高齢化社会に対応した安全なまちづくりのため、助成制度の検討を行うよう求めます。

4. 行政情報を積極的に市民に公開を！

市民の関心が非常に高い「市内巡回バス」などを検討する「市内公共交通検討委員会」が、昨年9月から行われています。しかし、この検討委員会のことや、約9百万円もかけて作成した貴重な調査資料のことを、多くの市民は知りません。まちづくりに関する市民の関心が強い問題についても、市民が情報を知ることができない状態は大きな課題です。

行政のもつ情報は市民のもので、特にまちづくりに関する情報は、特に支障のない限り、すべて積極的に公開し、市民が容易に知り、質問や意見が言えるようにすべきです。情報公開コーナーや図書館、公民館、ホームページなどですべて公開し、そのことを広報やメールニュースなどで市民に知らせるようにすることを求めます。

1. 議員による議会報告会を公民館で行えるようにすること

市議会議員は、主権者である市民の皆さんに対して、議会活動の報告をおこなう責務があります。市民誰もが参加できる議会報告会は、市民の知る権利を保障する手段の一つです。

しかし向日市は、市議会議員が、主権者である市民の皆さんに対して議会活動の報告を行おうとしても、向日市は市民会館以外の6つの公民館、6つのコミュニティセンターのすべてを使用させないという政策をとっています。これでは議員として市民に対する責務を果たすための活動が保障されず、その結果市民の知る権利が侵害されていると考えます。市長の見解を問います。

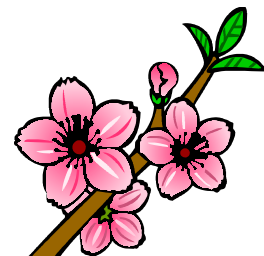
私は昨年12月議会でその法的根拠を示すよう求めました。その後、教育長、教育部長より「調整が必要なので、時間がほしい」と申し入れがあり、待っていましたが、先日「やはり許可できない」との報告を受けました。そこで改めて、以下質問します。

2. 放射能から子どもを守る取り組み

1. 給食食材の放射能測定を行うよう求めます。

長岡京市では、来年度予算に放射能測定器の購入費用800万円を計上し、保育所や学校給食の食材の放射能測定を実施する予定です。向日市でも実施し、子ども達の食材の安全を確認するよう求めます。

2. 文部科学省が「放射能副読本」を発行しました。しかし、「放射線はそんなに怖いものでなく、余り心配いらぬ」という印象を与える内容になっています。福島原発事故をふまえて子ども達に教えるにふさわしくない内容です。「放射能から子どもを守る」という基本に立ち、学校の先生方が、この副読本につい



原発災害は どこまで続く

安野 洋子

2月5日、辻元清美議員の国会報告会に参加した。私は、彼女が小泉総理時代に秘書給与問題で逮捕され釈放された時からサポート会員として支援している。今回の講師は、環境・原子力担当大臣の細野豪志だった。

私は、菅総理が昨年5月に浜岡原発を止めたように、全国の原発を止めてもらわねばと思いついて参加した。特に若狭の原発銀座14基に事故があると関西に大きな被害が及ぶと懸念している。

細野氏は、「10年で代替エネルギーに転換する」と言ったが、原発はすぐに止めるとは言わ

なかった。

それより「東北の被災地の瓦礫処理を引き受けてほしい」と言ったとき、会場はシーンとして拍手も起こらなかった。「放射能測定は徹底的に行なって安全な瓦礫」と言ったが、それでもなんとなく不安と言うのが私たちの感情だろう。2270万トンの瓦礫の内、処理されたのは5%だけと言うけれど・・・。

福島で放射能を浴びたものは福島で処理するとのこと。しかし他の瓦礫は各地に移動することで日本中に何かが拡散される危険性があるのではと言うのが皆の気持ちだ。でも瓦礫を無くさないで東北の復興はないと言われる。

私は、重い課題を突きつけられた気がした。

海岸に埋めたら何かが海水に出て行きそうで不安は残る。どこか無人の島の山に投棄できないか。日本は島国なので無人島が沢山あるのではないか。

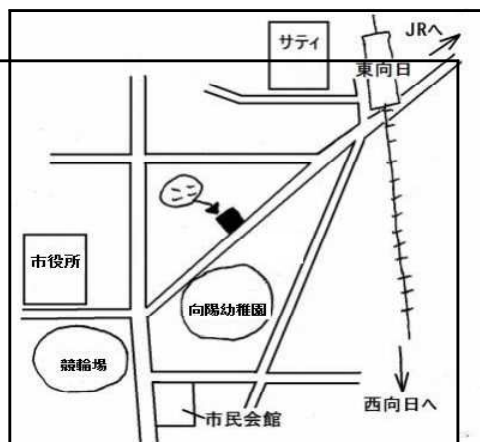
私は今、いい知恵がないかと考え続けている。

3 / 10 市民参加でまちをつくる会 3月例会

- 日時：3月10日（土）10時～12時
- 場所：杉谷ひろば（右図）
- 今年の市民参加のまちづくりの会の学習テーマについて
- 参加費：100円（資料代）

※ どなたでも参加できます。事前連絡不要。

問い合わせ：090-8384-5984



連載 ポイント解説

向日市の歴史

鈴木 健弘

第6回 鶏冠井（その1）

向日町が、古都長岡京から平安京遷都あとも町として、理想のみやこの構想から遠ざかってしまうが、幾つかのものを残していった。これらの中心になったのは鶏冠井である。阪急西向日駅周辺が、僅か10年間だけの都であったに過ぎないが、平城京からの遷都前後の新しい構想のもとに、作られた設計図は多くの夢を膨らませるものであっただろう。今も広くない面積ながら、美しい西山の丘陵地帯から、魂の眠る古

墳群に心を寄せ、東方の桂川流域に至る広大な平地は、後々開発の青写真を描いていたことと推察出来る。

市内の鶏冠井町の鶏冠井は、蛙の手(かえるで)のような五差路から名付けられた説があるが、今の五辻あたりを指すのであろうか。確たるものでは無さそうである。

阪急西向日駅北方直ぐに長岡宮朝堂院の会昌門遺跡があり、さらに300メートル位北に大極殿跡がある。長岡宮は約百メートルの大極殿院と、約166メートル程の朝堂院と二つの矩形が南北に接し、大極殿の東に線路を越えて、築地回廊で囲まれた内郭に内裏が建てられた。今この区域一帯はこれらの遺産を残す貴重な境界である。これはかつての鶏冠井村の西半分にあたり、小字名は西北から荒内、楓畑、大極殿、祓所、山畑、東側には北井戸、御屋敷、東井戸、堀ノ内、稲葉と南北二列に並んでいて、堀ノ内までの九つの小字区域でほぼ四角形をなす。